



2021～2022 年度
大船渡西ロータリークラブ会報

七福人



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

RI 会長テーマ

会 長 志田 成樹
副会長 菅野 嘉洋
幹 事 三田地 大悟

＝会長指針＝
多様性を尊重し、
未来につなげる

．．． 例 会 記 録 ．．．

10月第4週例会 2021年10月28日(木)

ソング : 奉仕の理想 ボックス : 18,000円 (報告者 浜田浩誠 会員)
本日出席率 : 48.65% 前回修正後100% (メンバー 14名) (報告者 熊谷雅也 会員)

★ 会長の時間 : 志田成樹会長



日本ロータリークラブの始まりは、1920年(大正9年)のこと、米山梅吉という人物が中心となって設立されました。

米山梅吉は、明治が始まった1868年、東京に生まれました。生まれてすぐに父親が亡くなり、母親の実家があった静岡で育ちます。12歳のときには、地元の名士の家に養子に入りますが…16歳で新聞記者を目指して単身で上京。電車などない時代です。箱根の山を歩いて超えて、東京までたどり着いたといひます。

東京では苦学しながら英語などを学び、もっと見識を広めたいと二十歳のときにアメリカ行きを決意、海を渡ります。当時、留学といえば、イギリスやドイツでしたが…アメリカには働きながら学べる学生のための「留学制度」があって、この制度をつかって寝る間を惜しんで働き、学んだそうです。

帰国後は、縁があって大手の銀行に入ります。すぐに頭角を現して数々の業績を上げて成功します。

そしていつしか「財界に米山あり」と呼ばれるまでになるのです。

ところが、大銀行の取締役役まで出世を果たした米山梅吉は、働きざかりの46歳にして、周囲をあっという間に驚かせるような考えを論文にして発表します。

それは、「成功して名前が世に出るといのは人生のまだ半分で、それだけでは何の価値もない。そうなったら次は潔く後輩に席を譲って、これまでの経験とお金のすべてをつぎ込み社会に奉仕する。それが花開いたときに初めて意味のある人生となる」というものでした。『新・隠居論』と名づけられたこの論文を読んだ当時の財界人たちはびっくりしたといひます。

さらに、人を驚かせたのはその論文どおり実際に行動したからでした。

米山梅吉が行った社会奉仕は、^{まいきよ} ^{いとま} 枚挙に暇がありません。のちに青山学院の初等科となる学校を私財を投げ打って創ったり、財団を通して結核の薬を開発する研究所を設立します。

また、貧困にあえぐ農村の援助のほか、ハンセン病患者への支援物資を持ってみずから全国の病院を訪ねて歩くなど…多岐に渡っています。

その中の1つが、「日本ロータリークラブ」の創設でした。

「ロータリークラブ」で米山梅吉は、関東大震災で被災した人への支援を始め、数々の社会奉仕を行って来ていますが、当時の米山梅吉が最も力を入れたことの1つが、お金のない学生を支援する福祉事業です。自分が苦学を重ねた経験もあったことから、ひと際力を入れて支援を行ったといわれています。

米山梅吉の学生への支援活動には、こんな話が残されています。

社会奉仕活動を始めた頃の米山に、ある人を介して「困っている学生の話」が来ました。優秀な成績を修めながら、経済的な理由で大学へと進学できないでいるというのです。米山梅吉は、快く支援を申し出て、

月々の援助を始めます。しかし海外へ行ったときのこと。船が悪天候に巻き込まれてあわや座礁か…という危険な目にあつたのです。

その生きるか死ぬかかるときに、米山梅吉の脳裏に浮かんだのは学生への支援のことでした。危機を乗り越えて帰国した米山は、「私にもしものことがあつては、学業の道が途絶える」そう言って、卒業までに必要な額をすべて用意して渡したそうです。

米山梅吉はこの支援を始めるとき、「1つの条件」を出しています。それは「相手の学生に、自分の名前を決して知らせないこと。」これに限らず、米山梅吉の行った広い範囲に渡る、数々の奉仕は、そのほとんどが「匿名」でした。

◆◆◆ 幹事報告 ◆◆◆

1 ガバナーエレクト事務所より

高木久子会員に次年度ポリオプラス副委員長への就任依頼が届いています。

2 大船渡商工会議所より

優良従業員表彰副賞協力金のお願いが届いています。 依頼額 30,000 円

3 白石ロータリークラブより

事務所および担当者変更のお知らせが届いています。

新 例会場 やまぶき亭

事務所 白石市福岡長袋字高畑4 1 (有)島貫タイヤ商会 担当名 島貫 昭

◆◆◆ 報告事項 ◆◆◆

★ 鎮魂愛の鐘進捗状況について

10月22日(金)、志田会長、水野会員が弊社へ来られ、鎮魂愛の鐘の建設についての詳細説明と建設依頼を、弊社社長と面談の上正式に依頼されましたので会員の皆様に報告致します。

経緯としましては、10月14日(木)例会時に水野会員から、建設場所にて池田さんが県担当者と、市担当者を交えての立ち合いがあるとの事で案内があり、当日の例会後に愛の鐘メンバーと会員数十名参加のもと私も建設場所へ行ってまいりました。

その際、その場で建設を弊社へお願いするとの事ではありましたが、正式依頼という形ではなかったとの事で、22日にわざわざ志田会長と、水野会員がお越しになり、弊社社長へのお願いという運びとなりました。現在の状況としましては、建設場所の地盤調査から始まりですが、県の所有地の為、占用許可が必要となる為、申請書類の提出から始めております。

今後の予定としては、10/27 占用許可の申請書類提出

11/4 地盤調査以降、構造検討、設計図作成、見積作成、工作物の申請書提出、工事着手という流れで進めて行きます。

県も今年度事業への予算確保との事で念をおされていますし、

令和4年3月完成が必須となります。地盤調査後の構造検討となりますので、期間が限られた中での工事となりますが、期間内に完成させるべく対応していきたいと思っております。

また、工事の進捗に関しては随時皆さんへ報告していこうと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



鎮魂愛の鐘移設先予定地にて
設計者池田元会員と

★ 野球代表者会議内容

- ・令和4年の全国RC野球大会東北地区大会の件は、白河西ロータリークラブが主管で進める。
- ・二本松ロータリークラブの新加入を承認(すごいピッチャーがいるらしい)

◆◆◆ 本日のプログラム ◆◆◆

フリーアワー：第 2520 地区 2021-2022 年度 RLI 委員会 副委員長 熊谷雅也会員

ロータリーの研修プログラム「RLI(アール・エル・アイ)」とはどんなプログラム？



最近、志田会長の卓話の中で RLI セミナーの事が話されましたが、その中味をわかりやすく説明して欲しいと依頼されましたのでお話ししたいと思います。

RLI は「The Rotary Leadership Institute」の略で、日本語では「ロータリー・リーダーシップ研修会」と訳されています。1992 年、元 RI 理事のデビッド・リンネル氏によって作られた組織で、日本では 2008 年に元 RI 理事南園義一氏の下でスタートし、現在日本では 36 の地区のうち 21 の地区で取り入れられています。

ちょっとユニークなのは、この研修プログラムは国際ロータリーの正式なプログラムではなく、会員の自主的な草の根の活動から始まり現在至っていると言うことです。名前に「ロータリー」の名を冠しているのは国際ロータリーからその許可を得ているからです。

さて、RLI の内容ですが、「パートⅠ」「パートⅡ」「パートⅢ」に分かれ、それぞれのパートは「セッション」と呼ばれる 6 つのテーマに分かれた講座になっています。その内容は、例えば「ロータリーにおけるリーダーシップ」「私のロータリーの世界」「私たちの財団」のようなテーマになっています。「ロータリーにおけるリーダーシップ」の講座の中では、「ビジネスにおけるリーダーシップとロータリーにおけるリーダーシップの違いは何でしょうか？」などという質問がディスカッションリーダーから出され、参加者がめいめいの考えを語り合います。質問に正解があるわけではありません。めいめいの発言はどれも正しいと言えますので、それぞれの意見を聞くことにより、自分の考えが深まって行きます。

受講生はたいいていの場合 5~6 人の少人数のグループに分かれて、1 セッションが 40~45 分、それを 1 日で 6 セッション受講します。セッションの都度受講生の顔ぶれが変わり、また同じクラブの会員は同じセッションにならないよう事務局で編成をしますので、受講生は 1 日で多くの人と顔を合わせ、いろいろなクラブの活動や会員の価値観を知ることができるように工夫されています。

さて、このような RLI から私たちはどのようなことを学べるのでしょうか？

- 1, 普段知ることのできない他クラブの活動の様子を、参加者の発言から知ることができる。
- 2, ロータリーに対する会員の考え方の多様性やロータリーの基本的な知識を学ぶことができる。
- 3, 3 日間の研修によって友達ができて、大会などで会える楽しみができる。特にリアルで行われる講座の場合には、他クラブの会員との交流は大きな楽しみです。

これらを通して、普段の自分のクラブ内での活動の中では知ることのできなかつた、ロータリー活動の本質や奥深かさ・多様性を自分なりに整理し、理解度が深まり、ロータリー活動へのモチベーションが高まります。自分のクラブが「ロータリーの世界」のすべてだったと思っていたものが、一気にその世界が広がり、ロータリーの可能性を体感することができます。

これを私なりの言葉にまとめると、「自分の中でロータリー活動のイメージや意義が明確になり、意欲的にロータリー活動に参加できるようになる」というのが RLI に参加することにより得られるものだと思います。数年後に会長や幹事を経験する人たちはもちろんですが、入会して数年の会員はいち早く受講されることにより、以後のロータリーライフが充実するのではないかと思いますので、ぜひぜひ受講をお勧めします(^_^)